

2017年度 学校法人 ISI 学園 事業報告書

学校法人 ISI 学園

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学科

- ①専門学校 東京ビジネス外語カレッジ (TBL, 2004年4月開校)
- ・ 専門課程 グローバルビジネス学科
 - ・ 専門課程 国際コミュニケーション学科
- ②専門学校 長野ビジネス外語カレッジ (NBL, 2005年4月開校)
- ・ 専門課程 グローバルビジネス学科
 - ・ 専門課程 国際コミュニケーション学科
 - ・ 専門課程 日本語学科
- ③各種学校 ISI 外語カレッジ (ILC, 2014年7月開校)
- ・ 進学2年コース (2部制)
 - ・ 進学1年9か月コース (2部制)
 - ・ 進学1年6か月コース (2部制)
 - ・ 進学1年3か月コース (2部制)

(2) 学生定員, 2017年5月度在籍数の状況

	学 科	課 程	総定員	入学定員	年次別	在籍数
T B L	グローバル ビジネス	2年	80	40	1年次	42
					2年次	40
	国際コミュニ ケーション	1年	40	40	1年次	44
					2年	200
					2年次	58
	計	---	320	180	---	288
N B L	グローバル ビジネス	2年	120	60	1年次	46
					2年次	7
	国際コミュニ ケーション	2年	180	90	1年次	92
					2年次	58
	日本語	1.5 年	105	52	1年次	0
		2年			160	80
					1年次	30
				2年次	49	
	計	---	565	282	---	323
I L C	進学コース	2年	120	60	1年次	85
					2年次	174
		1年9 か月	80	40	1年次	29
					2年次	0
		1年6 か月	120	60	1年次	24
2年次	0					

		1年3 か月	40	20	1年次	23
					2年次	0
	短期コース (附帯教育)	1ヶ月か ら6カ 月	40	40	---	38
	計	---	400	220	---	373
法人計		---	1285	682	---	984

(3) 役員・教職員の概要 (2017年5月度時点)

- ① 役員： 常勤理事5名 非常勤理事2名 監事2名
 ② 教職員： 計134名 (本務46名、兼務88名)

		教職員種別	男性	女性	合計
T B L	本 務	教員	3	3	6
		職員	3	7	10
		合計	6	10	16
L	兼 務	教員	21	13	34
		職員	0	0	0
		合計	21	13	34
N B L	本 務	教員	4	6	10
		職員	3	5	8
		合計	7	11	18
L	兼 務	教員	7	16	23
		職員	0	0	0
		合計	7	16	23
I L C	本 務	教員	4	2	6
		職員	0	5	6
		合計	4	7	12
C	兼 務	教員	24	7	31
		職員	0	1	0
		合計	24	8	31

2. 2017年度事業の概要

■法人本部

- ① 旧耐震基準で建てられた池袋キャンパス校舎(1980年建設)の耐震診断を実施。一部フロアについて、補強工事の実施が推奨される結果となった。当診断にかかった費用は、東京都私学財団の私立専修学校等耐震化事業費助成事業の対象として助成をいただいた。耐震工事についても、助成対象になるため、2019年度以降の実施に向けて検討中。
- ② 同じく池袋キャンパスの全館空調リニューアル工事及びエレベーター2基のリニューアル工事を実施。

■専門学校 東京ビジネス外語カレッジ

- 募集・広報活動：2018年4月入学者188名（定員達成、+8名）
出願総数322名
- 卒業成果：大学・大学院等合格率94%、就職内定率98.6%（3月末時点）
- 対当局関係組織整備：豊島区役所（テロ対策演習）、豊島警察署（情報連絡会委員）、
豊島消防署（避難訓練、AED講習）など関係強化

【TBL 2017年度主な事業の目的・計画】

- ① 教育の質の向上及びカリキュラム強化、資格取得による学生の目標意識向上、インターンシップによる企業との教育連携、専門職業大学への取り組みとしての職業実践専門課程認定
- ② TBLブランドの更なる向上、日本人マーケットへの異次元のチャレンジ、留学生は特定親密先も関係構築の強化
- ③ キャリアサポート体制の強化と産学連結型就職の確立
- ④ 2+2型連携大学の拡大・ディグリーグローバルスタンダード2+2学士獲得ステップ校へ

上記計画の総括（TBL）

- ① 教育の質の向上に関しては、授業評価システムを導入、マネジメントによる授業評価・学生の自己評価・担当教員の評価と3方向からのマトリックスで授業を分析、それをもとにカリキュラム改訂を行った。体系的な日本語教育、TOEICスコアに換算管理やオンライン英会話を導入した英語教育、業界のニーズに応え美容通訳授業導入、医師事務作業補助資格取得に向けた授業改訂を行った医療通訳教育など、今年度はカリキュラムを強化し、学生の資格取得目標意識の向上が図れた。インターンシップでは、制度の整備を行い、積極的に社会経験を積めるよう規定を改定したおかげで企業とのミスマッチが減った。また校内での一定基準が図られ、混乱なくインターンシップと授業の連携が図れた。専門職大学への取り組みとして、職業実践専門課程の認定基準に則した学則変更を行い年度末には管轄当局に変更届を提出。今後、認定要件である企業と連携した授業展開、定期的な教員研修などを計画的に実施していく。
- ② TBLブランド向上のため、リクルートによる入学者ヒアリングアンケートを実施し、入学者ニーズを掴む。WEB戦略、地方戦略などを含めた募集戦略の抜本的な改革と再構築が必要である。留学生募集に関しては2017年度より指定校推薦枠を活用した日本語学校とのパイプ構築を実施。日本語学校教職員担当説明会によるTBL入試制度の周知、訪問による告知、指定校によるパイプと3段階の課程を経て関係を強化した。
- ③ TBLキャリアセンターは、学校全体を上げてキャリア指導を行い、3月末時点で

98.6%の就職内定率（4月には100%）となる。企業連携は、日本テクノス・ザイマックスグループとの採用内定型インターンシップを実施し、確実に企業内定を得ている。就労ビザの取得で数名の学生が再申請を余儀なくされることがあったので、今後はその点も未然に防げるよう対策する。

- ④ カナダ・センチニアルカレッジと包括学術協定締結。TBLの英語教育にホスピタリティ教育を絡めた広がりを持たせ、2019年度より英語ホスピタリティコース運営の際の海外インターンシップ先を広げるという事業を実施した。また、ハンガリー・ペーチ大学との2+2型の海外連携プログラム確立、2017年度末には交換留学制度がスタートし、英語キャリアコース1年生1名が現在メトロポリタン大学で学んでいる。

■専門学校 長野ビジネス外語カレッジ

【NBL 2017年度主な事業の目的・計画】

- ① 学生募集拡大に向けた施策の強化
- ② 教育の質的向上（JLPT受験者数・合格率のアップ、その他資格検定の受験者数・合格率のアップ）
- ③ キャリアサポートセンターによる学生のバックアップ強化（AREC等との連携強化、インターンシップの拡充、ISIグループとしての情報共有）
- ④ 新コースの整備（日越通訳・ホスピタリティー・のカリキュラム編成・講師の確保）

上記計画の総括（NBL）

- ① 学生数も長野県第一位レベルといえるポジションに迫ってきた。県内外に向けた営業活動が奏功し、特に日本人入学者数は過去最高になった。また、バスツアーの展開なども含め、ISIグループ校からの出願者が増え、OC等イベントも一定の成果をみた。
- ② 教育の質向上の一環として基本的な学び方、生活習慣の定着性にも目を配って一時間一時間の授業、学校生活を大切にした実践教育に重点を置いて、結果的に学生満足度調査に反映できる改善を進めてきた。学校行事も全般的に見直した。
- ③ キャリアサポート（学生支援）は本校にとって最も重要なテーマであり、就職企業連携の継続と拡大、アルバイト先の確保、住居紹介業務、インターンシップの導入など前年から引き続き強化を図った。また、学生管理面でも適正校認定、出席不良者面談強化、学生徴収100%達成、在留資格更新申請許可率100%達成など一定の成果を上げた。
- ④ 国コミに3コースを新たに加え、志願者に対して選択肢を提供でき、生徒募集にインパクトを与えることができた。地元企業との連携にも好影響をもたらすと思われる。

■ISI 外語カレッジ

【ILC 2017 年度主な事業の目的・計画】

- ① 教育の質的向上（コースカリキュラムの更なる充実、実力判断テスト実施の継続、JLPT 受験者・合格者数の増加、教員の教授力向上に向けた研修会実施、成績 FB、教育 ICT 導入）
- ② 選択授業の安定運営（実践的な選択授業の展開）
- ③ 進路指導の充実（進学・就職説明会・面談会の企画運営、指導体制の強化、推薦校拡大）
- ④ 学生満足度向上に向けた施策（日本の歴史や文化に興味と理解を深められる多様なイベントの企画運営）
- ⑤ 自己点検自己評価の実施・公開、第三者評価実施に向けての準備
- ⑥ 学生管理の徹底（不法滞在・不法就労ゼロのための生活指導と管理体制の強化）

上記計画の総括（ILC）

- ① 教育の質的向上
 - ・選択クラスのカリキュラムの見直しと修正をして、授業の理解度アップを図った。
 - ・実力判断テストは継続して年 2 回実施をしたが、昨年対比 6 ポイント下がった結果となった。選択授業の回数を調整するなど、今後改善を図っていく。
 - ・教員研修会を年 4 回実施した。初級～中級へ、中級～上級レベルに上がっていくクラスに対する教授法、指導方法の研修、新規で採用した教員のための研修をそれぞれ実施した。
 - ・成績 FB を年 4 回の期末テストの後で配布。聴解、読解、会話、作文、文法、発音、語彙、課題の 8 項目の成績をレーダーチャートで表示、学生自身も分析しやすいものができた。
 - ・教育 ICT の導入に関しては導入を計画中
- ② 実践的な選択授業の展開
 - ・就職クラス：企業訪問、校内企業説明会、外部就職説明会へ引率参加
 - ・会話クラス：アクティブラーニングを 3 回実施
- ③ 進路指導の充実
 - ・留学生増加に伴い、進学競争も激しさを増している。また外国人労働者を求める日本の社会現状の表れでもあるが、就職希望者が増え続けている背景がある。
 - ・進学希望者の対応。日本留学の目的そのものが多様化していて、専門学校進学希望者が明らかに増えている。
 - ・「専門学校分野別体験授業」を校内で開催、16 校の専門学校が参加をした。留学生専門分野の体験授業を受けいち早く進路先を決めることができた。大学大学院受験生には、EJU, JLPT 対策授業、模擬授業を定期的を実施。
 - ・就職希望者の対応
 - 日本語能力の低い学生は、まず JLPT 対策クラスを受けてから就職クラスをうけて、既習者は就職クラスを受けている。
 - ・本国の大学での専攻や職歴、職務内容と自己分析の時間を経て、志望職種を絞り企業研修を行う。

- ・また、ビジネスシーンで使われる日本語を始め、履歴書、志望理由書、ビジネスマナー、入社後に必要な知識も身につけられるカリキュラムになっている。

- ・2017年度卒業生進路実績

進学：109人（大学26%、専門学校67%、大学院含むその他7%）

就職：63人（IT、ホテル、観光、飲食、アパレルなど）

- ・「ISI進路手帳」の作成、入学から卒業までの間、進学や就職に必要な情報は情報とスケジュール管理ができ、自己管理しやすいものになっている。

- ・指定校推薦枠

 昨年の50校から11校増やせた。（推薦校推薦廃止の学校が2校、現在59校）

 推薦枠を広げない専門学校からの推薦枠を獲得している。

④ 学生満足度向上に向けた取り組み

- ・「学生生活スタートブック」を作成。ISIの教育理念から学則、留学生活に必要な情報を網羅したハンドブックとなった。

- ・年間行事にあわせて、さまざまなイベントを企画。

「文化体験から学ぶ日本」をスローガンに、お相撲見学、和紙づくり、うちわ手作り、日本橋散策で歴史を学ぼう、藤まつり、盆踊り大会、餅つき大会、日本伝統文化フェスタなどに参加するなど実施。

⑤ 自己点検自己評価は昨年同様に実施、公表済み。

⑥ 学生管理の徹底

- ・年4回毎学期「学生個人情報調査」を実施。住居、バイト、含む生活状況把握に努めている。

- ・また指導が必要な学生には、担任と学生生活サポートスタッフとで面談。面談内容を定型フォームに記録を残して、最終的には個人カルテとして保管・管理している。

- ・担任、主任、事務局長、教務部長、校長の承認を終えたら、全職員に添付メールで共有する。

- ・問題点が改善されるまで持続的指導していく体制が整っている。

以 上